

# 田んぼ・ビオトープのある里山景観づくり

## *The Making of Scene of the Village with Rice*

### *Field Aquarium*

岩崎行伸

「まちづくり」という言葉が日本全国的に広まっている。少し前には、「街づくり」「町づくり」「まちづくり」と三つが併用されてきた。まちづくりは、実践の段階に入り、多数の人が地上に蜜集して生活するには、お互いに協力・利便性・住み良いまちをつくる必要がある。

これからの時空間には、「まちづくりと棚田とビオトープ（溜池）のある水棲環境景観を」創造している。それには、自然界と固有種たちの生態系保護活動とともに、癒し生活空間のある町づくりを考えている。



図1. 公園内にあるビオトープ（清水/船越堤公園）

田んぼは、稲だけでなく、様々な生き物を育むビオトープである。田んぼは、栄養に富んだ水が浅く溜められた、生き物にとって快適な生殖・増殖、餌場環境である。永年、野業

の手によって維持されてきたが、園場整備や稲作の早期化、農薬の使用、耕作放棄等で生き物たちが生息できなくなり、絶滅を危惧されているものも多くなった。以下に棚田を含む田んぼ・ビオトープの主役たちを紹介しよう。

**ホタル：**ゲンジボタル幼虫の生息地は、穏やかな流れのある小川や水路で、水深15～40cm、流速15～25cm/秒、PH7.0～8.0、溶存酸素8mg以上のところに生息している。幼虫はカワニナを食べて成長するため、カワニナが生息していないとゲンジボタルは育たない。

ヘイケボタルの幼虫は、水深0cm～泥水地10cmの田んぼや水田・休耕田の流のない止水に生息、水底でモノアラガイ・ヒメモノアラガイ・サカマキガイ・ヒメタニシなどの貝を食べて成長する。

**カエル：**田んぼや水田で産卵するカエルには、ヤマアカガエル・ニホンアカガエル・シュレゲルアオガエル・トノサマガエル・モリアオガエル・ニホンアマガエル・ツチカエル・ヒキガエルなどがある。これらの蛙が産卵し、オタマジャクシが変態して陸に上がる段階の亜成体に成長するためには2月～8月まで、水深5～20cmに湛水した田んぼが必要である。餌は田んぼとその周辺で発生するユスリカ・カなど、稲の青虫を含む昆虫類やミミズである。

**トンボ：**田んぼに集まる主なトンボはウスバキトンボ・シオカラトンボ・アジアイトトンボ・アオイトトンボ・クロスジギンヤンマアキアカネ・ナツアカネノシメトンボ・ホソミオツントンボ・キイトトンボ・ギンヤンマ・カトリヤンマ・ニヤンマなどである。

トンボの種類を蘇らせるためには、田んぼに水位がある、稲刈り時期まで水が残る、餌となるミジンコや水生生物が湧いてる等である。このような環境を作るには稲作を実施する。



図2. 里山景観（静岡/駿河/谷田/吉田川沿い）

**水棲種**：菊川棚田の小川で採集確認した水棲在来種をあげると（2,005～2,009）、カワムツ・ヨシノボリ・シマヨシノボリ・ドジョウ・シマドジョウ・ウキゴリ・シマウキゴリ・メダカ・タモロコ・ヤマトヌマエビ・サワガニ・オオタニシ・カワニナ・アカハライモリ・ホンイシガメなどである。田植え時期では12～17種、稲刈り時期では17～18種生息していることが確認された。

このような自然界の里山景観と生き物たちを、何時までも日本国土に保全・保護されることを望むものである。

#### 参考図書

- 1) 田んぼビオトープ入門（2005）：豊かな生きものがつくる快適農村環境、農山漁村文化協会、養父志乃夫編
- 2) 静岡の棚田研究（2009）：棚田保全ボランティア体験・生き物たちと里山景観の再生、静岡の棚田研究、東海大学水棲環境研究会、静岡新聞社

#### 添付資料

- 図1. 公園内にあるビオトープ（清水/船越堤公園）
- 図2. 里山環境景観（静岡/駿河/吉田川沿い）

---

水棲&環境研究、会員：日本野鳥の会・昆虫写真研究会・自然環境と生き物観察会